

2026年度 第1回 大庭と小糸みんなの学校運営協議会 会議録

開催日時 2026年 5月28日（木）10時～12時
場 所 藤沢市立大庭中学校 第一会議室

出席委員	参 加 者 1 細沼 恵美子（大庭と小糸みんなの学校運営協議会会長／湘南大庭地区子どもサポート会議会長） 2 小澤 明雄（副会長／藤沢市立大庭中学校 校長） 3 澤野 美奈子（副会長／藤沢市立大庭小学校 校長） 4 北野 博三（副会長／藤沢市立小糸小学校 校長） 5 渡邊 なな子（大庭中学校 保護者） 6 綾部 幸恵（大庭小学校 保護者） 7 金田 久美子（小糸小学校 保護者） 8 玉置 日菜子（藤沢市社協地域福祉課 湘南大庭地区担当 CSW） 9 大川 裕三（湘南大庭民生委員・児童委員協議会 会長） 10 大竹 貞代（藤沢若葉幼稚園 園長） 11 渡辺 鶴雄（地域子どもの家ちびっ子ドーム） 12 東谷 聡子（小糸小学校区放課後子ども教室推進事業運営委員会（こいとっこ委員長） 13 飯島 広美（元藤沢市教育委員） 14 相原 佐登美（社会福祉法人光友会ライフ湘南 所長） 出席委員：14名（欠席委員：1名） 事務局：猿渡 千恵子（藤沢市立大庭中学校 教頭） 藤本 伸一（藤沢市立大庭小学校 教頭） 上村 辰男（藤沢市立小糸小学校 教頭） その他出席者：0名 傍聴人数：0名 オブザーバー：0名
次第	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 自己紹介 4. 議題 （1）「大庭と小糸みんなの学校運営協議会」について （2）令和8年度学校概要・学校運営方針について 5. 閉会
協議内容	令和8年度学校概要・学校運営方針 ※大庭中学校 ・学校公開ツアーを年3回の公開週間に合わせ実施。第2回以降は在校生保護者にも拡充。不安軽減と小中連携を促進。 ・不登校・起立性調節障害等の生徒向けに、学習支援室での居場所を5月12日開始。月曜は保護者カフェ、火曜は生徒支援。担任から対象者へチラシ手渡し。教員連携で情報共有・支援。 ・教育目標を「学力の向上」に重点化。朝の探究活動（10分）を継続し、思考

・表現の力を育成。主体性・自主性の周知と場面に応じた育成方針。体育祭（6月9日）に向けスローガン「一生懸命は格好つけなくても格好いい」を周知。行事運営の安全配慮。修学旅行（京都・奈良 6月19～21日）はオーバーツーリズムで課題である。代替交通の検討継続。移動・費用気象対応（雷・大雨・熱中症）に係る下校判断・周知・連絡体制の強化が課題。デリバリー給食の休校時対応も懸念。体育館フロア塗装実施で安全性向上。市内体育館エアコン整備計画（令和10年目途）を期待。生徒会が朝の挨拶運動を継続。

※大庭小学校

・PTAはボランティア制4年目。ボランティアによる授業支援・遠足見守り等が活発。茶話会を2学期に向け企画。学校教育目標の目指す子ども像を見直し、他者意識を育てるため「みとめ合い、思いやる子」を設定。自己肯定感向上のスローガン「失敗OK・チャレンジ大歓迎」運用。経営の5本柱（安心安全、教育課程、支援教育、地域連携、働き方改革）を推進。特別支援体制が強み。特別支援学級・通級（ことばの教室・すまいる）併設。専門性を通常学級へ共有し校内支援力を高める。

※小糸小学校

・学校教育目標「丈夫・思いやり・よく考える・頑張る」を踏襲。地域とともに育つ子を重視。働き方改革で個別対応時間を確保。全校286人・1年生38人。挨拶が増加し、安心感につながる。自己肯定感を育む挑戦の価値を伝達。地域公園での自転車・遊び方の注意に対し現地確認・指導。

・PTA非設置校では家庭科ボランティアを拡大（4名→9名）。教員保護者対話機会の創出を検討。地域守り体制も検討。幼稚園・学童・地域拠点幼稚園の預かり保育需要が増加（平均2030名）。就労変化に対応し、7時19時の拡充や代休時の預かり提供を検討。学童クラブ（大庭小学校対象）は65名在籍。安全確保・施設老朽化の市連絡を継続。イベントは200名超の参加もあり。

※地域の居場所「こいとっこ」は見守りスタッフ12名で活動。夏休み「遊びの日」を5日間再開。中学環境科学部・看護学校と連携。高学年の利用減とスタッフ高齢化が課題。障害者支援施設「光友会」は登録78名、日平均60名強。支援学校卒業生8名受入。喫茶や製造（パン・麺・豆腐）で地域に開かれた運営。福祉連携CSWとの相談連携が確立。入学式後の相談も迅速引き継ぎ。

※民生委員は児童グループを編成し対応強化。6月に小学校5校・中学校2校で意見交換・懇談会を予定。3歳以下見守り毎月実施。

※コミュニティスクール運用・予算例年、各校41,000円（3校計123,000円）の予算を配分。備品・講演料等に充当。今年度も同額予定。火曜の学習支援「Cocon Tuesday」に2名支援者が参加。年間20,500円ずつの支払い想定も、時給換算では低額で実質ボランティアが多い。ミシン補助・プール送迎等の1回500円設定は人数増で予算枯渇の事例あり。全市展開後も予算水準は据え置きで持続可能性に課題。来年度増額要望を継続。連携方針三校＋一園の広域連携を強化。以降の会議でテーマを設けた熟議、学校評価キーワード討議を予定。コーディネーター3名で共同取組の企画・推進。小中接続（公開ツアー、支援級見学）、保護者参加促進、放課後支援、地域見守りの具体化を図る。